

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(あい)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 3 年11月 13 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年3月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。

・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるように意識している。

・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。

・家族との関係の再構築の機会ととらえ、ご家族の思いにも寄り添うように信頼関係を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木や襖等の設えのある和のテイストの風情で家庭的な温かみを感じさせるホームであると共に、認知症高齢者グループホームの原点を想起させるニーズオリエンテッドな視点や利用者主体の考え方がケア実践の随所に表れている。利用者の対応においても、本人との会話、しぐさや様子から一人ひとりの行動の背景を理解するように心がけ、やりたい事やできる事をさせていただくよう支援している。例えば、家事が好きな利用者もいれば、嫌いな利用者もいるので、無理強いせず、食器拭きや洗濯物たたみ等、できる事をしてもらうようにしている。また、やりたいができない場合には、職員が手伝って一緒にやってみたり、職員が見本を見せたり、助言をしたりしている。身体拘束をしないケアに向けた取り組みに力を入れており、運営推進会議の場を委員会として話し合いを行っている。現在、玄関の施錠を含めて拘束の事例は無い。外出しようと玄関へ向かう場合等は、引き止めるのではなく、その方の行動を観察し、共に散歩に出たり、庭先を歩く等して利用者の気持ちに寄り添った支援を行っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。	理念は玄関等に掲示している。コロナ禍により会議を控えてきたため、理念を話題にする機会は少ないが、ケアのあり方を検討する際に、理念のキーワードにある「自由」「安全」「楽しみ」を踏まえて話し合うことができている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	きらくカフェ、芋煮会など様々な行事にボランティアのご協力を頂いている。また、地域の夏祭りや各種行事にも自治会等からご案内を頂き、参加している。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為実施できていない。	コロナ禍で控えているが、例年は、カフェや演奏会等にはボランティアが関わっていたり、また、近隣の幼稚園には行事に招待されたり、交流に来ていただいたりしていた。毎月作成の「きらく通信」は役場にも置いてもらい、地域の人々に広報している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の方への理解や支援について話し合いを重ねてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていない。紙面にて、取り組み状況などを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議など開催できていないが、紙面で状況や取り組みの報告などを行っている。	新型コロナウイルス感染症対策のため会議は開催していないが、行事や身体拘束をしないケアの状況、空き状況等を書面にして、出席予定者全員に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議や行事を開催することができず、顔を合わせることが減ってしまっている。紙面の報告や電話等で連携を取っている。	運営推進会議中止の案内と共に書面にまとめた運営状況等を送付している。ワクチン接種についてや法改正に伴う確認など、適宜問い合わせをし、助言や指導を得る等して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねて実施してきた。	運営推進会議を身体拘束検討委員会の場合としているため、会議が開催できない現状でも書面にて報告している。日々のケアの中で、危険防止策を考える際に、拘束にあたらなないかをスタッフ同士で話し合っている。玄関から出ていく際にも、引き止めたりせず、行動を見守り、声をかけるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから、ご利用者の様子をお伝えしたり、来所して頂いた際には、ご家族との意見交流を密にして信頼関係を築けるよう心掛けており、頂いた意見を日々の生活や行事に反映している。	面会時や体調の変化時、プランの更新時など、様子をお伝えし、意見等を伺うようにしている。体調が悪く、居室から出て来れないケースの面会において、家族の意見から、居室の窓越しでの面会で行う等の対応をしている。	アンケートによる情報収集を検討してきたが、内容が定まらないまま実施に至っていない。サービス満足度調査として、選択式や自由記述式などを織り交ぜる等工夫し、実施に向けた取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティング、リーダー会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為十分な意見交流の場が少なくなっている。日々のスタッフの申し送りを十分に行い、業務日誌の中で意見を求めるなどして情報を共有し、運営に反映させるようにしている。	新型コロナウイルス感染症対策のため複数名が集まる会議を中止しているが、職員間の意見交換の促進については意識して取り組んでいる。年に1回、個人面談の機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を積極的におこないながら、育成への取り組みに努めている。マニュアル等の整備をしながら、すべてのスタッフが同じ取り組みができることを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。社会福祉士食堂の開催場所として初の取り組みもしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、受け止めながらお話しすることで不安を和らげたり、日々の変化に気付き寄り添いながら、安心して生活ができるように信頼関係を築いていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の段階でご家族様と話し合い、できるだけ情報を得てどのようなケアを行っていくのかを話し合うことで安心感とより良い関係が築けるように努めている。その後も定期的にご家族と話し合う機会が必要である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期はどのような支援が必要か検討しながら進めている。その時々で適した支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを忘れず尊重し、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。家事仕事等は、できる限り共に行い、穏やかな日常生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や美容院等への外出、外食や外泊をご家族様に協力して頂きながら、ともにご本人を支えていくという関係構築に努めている。ご家族様に行事に参加していただくことも、コロナ終息後に再開していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり面会の機会は減っている。通信でご様子を伝えたり、電話連絡をするなど関係を持つように努めている。面会制限の解除に伴い、面会の場を戻しつつある。	入居時に家族からの聞き取りにより情報収集している。生活歴や馴染みの関係等はフェイスシートを作成し、カルテに閉じている。日々の会話から聞き取る情報もあり、自宅に行ってみたり、馴染みの方の写真を話題にしたりする等して関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうときは、その前にスタッフが介入するが、それ以外ではできる限り見守りながら利用者同士の関わり合い、支え合う関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも来て頂けるような提案をし、相談に応じたりしている。気軽にお越しいただけるような関係を目指したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの様子から気づくことや小さな表情の変化等を見逃さないように努めている。一人ひとりじっくりとお話をする時間を設け、本人の思いや希望の把握に努めている。	会話から「普通のご飯が食べたい」という意向に応え、粥食から普通食に変更したり、「刺身を食べたい」という意見を反映させ、メニューに取り入れたりしている。表情やソワソワする様子などから、やりたい事やトイレ等の様々な場面での意思を汲み取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった1日のスケジュールはないため、一人ひとり思うように生活して頂けるよう努めている。その生活の中で、見守りながら一緒に生活する中で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族の思いを確認し、アセスメントをもとに、ケアプランの作成を行うよう努めている。その後スタッフ全員が内容を把握してケアへとつなげている。	アセスメントや原案作成等は担当職員が行っている。プランが変更された際には、変更点を業務日誌に記載することで周知している。プランの原本は個別ファイルに保管し、コピーをファイルに閉じる事で情報共有しやすくする等して工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。記録はご家族へ開示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や散髪など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカボランティアやきらくカフェ、行事等ボランティアの協力を得ている。おもちゃ図書館のボランティアの協力も受けている。 * 新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現在中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。	かかりつけ医の選択は自由であり、今までのかかりつけ医を継続することもできる。協力医療機関からは訪問診療専門医が月2回訪問しており、緊急時の対応もできている。また、訪問看護事業所からは、週1回、看護師の訪問日があり、健康管理や相談・対応ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断等、連携先訪問看護ステーションの協力を得ながら直接的な処置や医療につなげるように支援している。いつでも相談できるため、スタッフの負担軽減にもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。	看取りの希望については入居時に確認している。看取り期に入る際に、主治医や家族、ホームで話し合いがもたれ、本人家族の希望に沿うよう対応している。看取り後の研修を行う等、職員の心のケアにも十分配慮している。家族の宿泊希望にも応じることができるが、現在はコロナ禍により控えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるように、年3回の普通救命講習を受講計画を立てて実施している。(今年度はコロナのため実施見合わせ)AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。(年2回通報訓練実施)	毎月1回、地震や火災を想定した避難訓練を実施している。避難通路に物を置かない等の反省を活かした訓練も行っている。食糧やオムツ等、3日分の備蓄がある。また、大きな家具は転倒防止のため固定されている。防災タンクがあり非常時にも水は確保されている。	ハザードマップの更新により、浸水被害等の水害に備える必要がある。今後、避難訓練の際に2階への垂直避難訓練を実施する等、新たな対策を取り入れ、工夫に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをするよう努力している。居室に入る際はお声掛けして入室するように心がけている。	利用者尊重の観点から、丁寧な声かけを心がけている。ミーティングで話し合いがされており、排泄支援等が必要な場合、本人の気持ちを大切に考え、さりげない声かけに努める等、配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのようなことを希望しておられるのか、日常の動きの中から気付いたり、スタッフが声掛けしながら、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし集団生活の中でも一人の時間を大切に過ごして頂いたり、自主的に何かしたいと希望されれば、できる限りは叶えられるような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が用意された身のまわりの物を使用しておられます。その中からご自分で選びおしゃれしておられます。服装の乱れがないよう気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しめるように努めています。準備や片付け等をする事で、より達成感を満たせるよう支援しています。	手持ちの食材で何ができるかを利用者と相談し、メニューを決めている。季節に合ったメニューを提供し、時には、「寿司」等テイクアウトすることもある。利用者は、皮むきや食器拭き等、自分のできることを手伝う役割を担い、充実感を感じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューを工夫しながら、偏りがないように気を付けています。チェック表を使用しながら、個々に必要物を提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアはご本人に任せている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを見つけながら、自然な流れでトイレへ向かえるよう、声掛けしています。できる限り自立できるように支援しています。	職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導することで、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。誘導の際の声かけも小声にする等、十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促し、適度な運動と、食材の工夫、乳製品を取り入れています。時々漢方茶の飲用も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。	週2回、1日2～3名ずつ体調に合わせて入浴しているため、ゆったりと入浴している。入浴時は職員と1対1で関われる時間でもあり、ゆっくり会話を交わせる機会にもなっている。気候に合わせて、脱衣室の室温にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。	コロナ禍の状況にあり、以前のように外食や買い物等には行けない時期もあったが、近隣を散策したり、心身状況が低下しないよう、ウッドデッキに出て外気を感じてもらおう等配慮している。緊急事態宣言やまん延防止措置が解除されれば、少しずつ、買い物等にも出かけることを検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。	木材の壁や襖等、和の設えで落ち着いた雰囲気がある。季節に合った装飾品が飾られており、室温も適切である。コロナ感染予防のため、時々窓を開け、換気をする等、3密を避ける工夫もされており、利用者は自分の生活スタイルで思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。	家で使用していた家具を設置したり、写真・絵手紙等を飾ったり、ホームでも自宅のような雰囲気づくりをして、温かみのある居室環境ができている。室内もきれいに整理整頓がされ、避難時には障害とならないよう動線に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を一般住宅に近いものとし、わかりやすい環境を提供するように努めている。一人でも移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守りを行っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200074		
法人名	株式会社ライフクリエイト		
事業所名	グループホーム喜楽(きらく)		
所在地	岐阜県瑞穂市只越302番地1		
自己評価作成日	令和 3 年11月 13 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年3月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193200074-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、一日一日が利用者様各々のペースに合わせた生活になるよう働きかけている。その中で楽しみや役割のある生活ができるように支援している。 ・生活の場であることを意識して、利用者様が得意とすること、ご自宅で行ってきたことなどを継続して行ってもらうことで、活力のある日々を送ることができるように意識している。 ・協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、医療面での支援が受けられるように体制を整えている。 ・家族との関係の再構築の機会ととらえ、ご家族の思いにも寄り添うように信頼関係を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づき実践を行うように意識している。基本理念が確認できるように玄関に掲げてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	きらくカフェ、芋煮会など様々な行事にボランティアのご協力を頂いている。また、地域の夏祭りや各種行事にも自治会等からご案内を頂き、参加している。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の方への理解や支援について話し合いを重ねてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できていない。紙面にて、取り組み状況などを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議など開催できていないが、紙面で状況や取り組みの報告などを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、運営推進会議や行事を開催することができず、顔を合わせることが減ってしまっている。紙面の報告や電話等で連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は基本玄関の施錠はせず、自由な出入りができるようにしている。また、身体拘束に関する研修を設けている。身体拘束などの適正化のための対策を検討する委員会を運営推進会議に兼ねるて実施してきた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行うことで意識の継続に努めている。職員が岐阜県高齢者虐待対応支援チームに所属しており、社内研修を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する社内研修を行っている。弁護士や司法書士、社会福祉士と相談できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはわかりやすい言葉を用いて十分な説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ご家族との密接なやり取りが難しい状況であるが、電話などでご意見が伺えるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティング、リーダー会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為十分な意見交流の場が少なくなっている。日々のスタッフの申し送りを十分に行い、業務日誌の中で意見を求めるなどして情報を共有し、運営に反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの働き方について希望を確認し、多様な働き方を受け入れていくことで労働環境を整えている。勤務態度や業務理解などを踏まえて評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受けながら育成への取り組みに努めている。新規スタッフに対して細部にわたってのケア指導が十分にできるようにマニュアル等の整備を開始している。新規スタッフの定着が課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市や地域包括支援センター、広域連合などの主催する研修会、活動を通じて連携し、サービスの向上に努めている。研修会などで同業者との交流機会が多くなり、現場で生かせるよう努めたり、徐々に意識向上もみられる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを傾聴し、受け止めながらお話しすることで不安を和らげたり、日々の変化に気付き寄り添いながら、安心して生活ができるように信頼関係を築いていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の段階でご家族様と話し合い、できるだけ情報を得てどのようなケアを行っていくのかを話し合うことで安心感とより良い関係が築けるように努めている。その後も定期的にご家族と話し合う機会が必要である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期はどのような支援が必要か検討しながら進めている。その時々で適した支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者であることを忘れずに、しかし日常生活を共に過ごす関係であることを意識している。何か家事をするときには一緒にいき、穏やかな日々の生活を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や美容院等への外出、外食や外泊をご家族様に協力して頂きながら、ともにご本人を支えていくという関係構築に努めている。ご家族様に行事に参加していただくことも、コロナ終息後に再開していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり面会の機会は減っている。通信でご様子を伝えたり、電話連絡をするなど関係を持つように努めている。面会制限の解除に伴い、面会の場を戻しつつある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうなときは、その前にスタッフが介入するが、それ以外ではできる限り見守りながら利用者同士の関わり合い、支え合う関係を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もいつでも来て頂けるような提案をし、相談に応じたりしている。気軽にお願いいただけるような関係を目指したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの様子から気づくことや小さな表情の変化等を見逃さないように努めている。一人ひとりじっくりとお話をする時間を設け、本人の思いや希望の把握に努めている。また詳細な聞き取りをする事で、日々の会話に話題性が増すと考える。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話やご家族様との会話から話を掘り下げていくことで、以前の生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決まった1日のスケジュールはないため、思うように生活して頂いている。その中で、見守りながら一緒に生活する中で、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い、計画書を作成する中で、ご本人やご家族様の思いを確認することを大切にしている。決定事項はスタッフが確認してケアにつなげるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での言動や行動等を個人記録に書き記し、スタッフ間での情報共有やケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや往診など必要に応じてできる限り社会資源を活用しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカボランティアやきらくカフェ、行事等ボランティアの協力を得ている。おもちゃ図書館のボランティアの協力も受けている。 * 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続や変更等は、ご本人の状態、ご家族の意向等を、話し合いによって行っており、受診や往診等を経て情報のやり取りを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断等、連携先訪問看護ステーションの協力を得ながら直接的な処置や医療につなげるように支援している。いつでも相談できるため、スタッフの負担軽減にもつながっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には、入院に至るまでの経緯や状況を記録に残したうえで、ご家族様や医療機関に説明している。スタッフが面会に行くことで早期退院に向けて現状の把握に努めている。退院時のカンファレンスに参加する事で、退院後も安心して生活できるよう情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて入所時にはご家族様の思いを確認しているが、思いの変化も忘れずに、現状の思いを確認させていただきながら支援に努めたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるように、年3回の普通救命講習を受講計画を立てて実施している。AEDを設置しており、施設内や地域の方に活用していただきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域の方の協力を呼びかけている。毎月、避難訓練を行い反省点を話し合っている。全職員が訓練に参加できるようにすることが必要だと考えている。今後非常災害時のマニュアル等検討していく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけの仕方や言葉を選び笑顔で対応するように心がけている。居室に入る際にもご本人に確認することでプライバシーに配慮している。社内外の研修で接遇についても意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言いやすいような声かけ、選択しやすいような声かけを行い、自己決定につなげている。スタッフが押し付けることのないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり思うように過ごしていただいている。家事では、自発的にされる方には行って頂き、自ら行動を示されない方には提案しながら行って頂くこともあり、満足感、達成感、充実感が感じられるよう労いと感謝を伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に服装の乱れがないか気を付けている。身の回りのものはご本人、ご家族様が用意されるためその中でご本人が選択しおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを伺いながら、メニューと一緒に考えたりして、食事を楽しめるように努めています。準備や片付け等をする事で、より達成感を満たせるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の献立を確認しながら、バランスの取れたメニュー作りを心がけている。水分不足の方には声かけをして飲んで頂いたり、苦手な方には数回に分け1日に必要な水分確保が出来るよう努めている。嗜好品も複数準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の口腔ケアはご本人に任せている。介助が必要な方には用意から歯磨きなど必要に応じて介助している。義歯は毎晩スタッフが預かり、定期的に除菌洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排せつパターンをチェック表で確認し、それに沿って声かけをしたりして自立できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるように適度な運動と食材の工夫、乳製品を取り入れたり、主治医に相談し、服薬等の調整も行っている。時々、漢方茶の飲用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本の入浴時間はあるが、希望される時間を伺ったり、ご本人の日々の気持ちの変化を見極めながら気分よく入浴して頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方はご自身のペースで休まれている。不調時や疲れが見える時は休んで頂くように声かけ、支援している。なるべく昼間の休息時間が長くならないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日誰が何を服薬するのか事前に用意してあり提供できるようにしている。個人のケースファイルに処方箋を綴じて確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて家事等をお願いし、時には自主性も大切にしている。ねぎらいの言葉で感謝を伝えることを忘れないようにしている。趣味やレクリエーションを楽しめる時間の提供をもっと行いたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外食の機会はコロナ禍の状況で見合わせる機会も多いが、散歩などスタッフが付き添い、戸外へ出かける機会を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、そこから必要に応じて支払いを行っている。入金時には領収書をご家族へお渡しし、入金の明細を確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への用事があるときは、声をかけて頂き、電話を使用され、連絡を取ったりしている。郵便物が届いた場合にはご本人に渡している。手紙を書かれた場合は投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にお花や写真、作品を飾ったり、居間や各場所に季節感を取り入れた飾りつけを行っている。わかりやすくトイレやお風呂場の掲示をしている。落ち着いた雰囲気の中で生活することができるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、一人ひとりが自由に好きな場所で過ごしている。気の合う方でお話をしたり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れたものを持ち込んでいただくことで生活の継続性を考えている。居室に作品を飾ったり、ご家族様の写真や手紙を飾ったりご本人が楽しめるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を一般住宅に近いものとし、わかりやすい環境を提供するように努めている。一人でも移動しても安心できるように各ユニットのスタッフが見守りを行っている。居室の名札、トイレ、洗面所等わかりやすく掲示している。		